

平成 28 年度

全国学力・学習状況調査の
結果について



海老名市立上星小学校

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5



資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起きている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家からは、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的な生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査（平成23年度は震災の関係で実施を中止）でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒

- ・小学校第6学年
- ・中学校第3学年

◆ 調査内容

(1) 教科に関する調査

【小学校】

国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)

【中学校】

国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

(2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

(3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成28年4月19日(火)



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 目的や意図に応じて、書く事柄を整理する力

書く力

- 目的に応じて、図や表を関連付けて読む力

読む力

《努力を要する所》

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む力
- 用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列を決める。

言語についての知識・理解・技能

- 登場人物の人物像について、複数の叙述を基にして捉える。

読む力

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- グラフを基に、分かったことを的確に書く力
- 目的や意図に応じて、グラフを基に、自分の考えを書く力
- 目的や意図に応じて、表を基に、自分の考えを書く力

書く力

《努力を要する所》

- 目的に応じて、質問したいことを整理する力
- 質問の意図を捉える力
- 話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する力

話す・聞く力

日常の授業の中でも、友達の考えなどに対して自分の考えと関わらせて聞くことを苦手としている。そのため、自分の考えと比べて検討する、などの学習活動を行い積み重ねていく必要がある。

これまでの取組から

- 授業の中で、自分の考えをノートにまとめ整理する活動を多く取り入れているため書くことを得意としている児童が多いです。
- 朝学習では本の読み聞かせを行っており、本に親しむ習慣のある児童が多いです。

今後の具体的な取組について

- 日常における会話や学習活動における話し合い活動等において、相手の話を受けて返すという態度を育て、「聞くこと」を自ら学び、課題を解決するためのより主体的な行為として捉えて指導していきます。
- 読書週間などを利用し、より多くの漢字に触れる機会を増やすとともに、日常の書く活動で習得した漢字を活用するよう指導していきます。

算数に関する調査結果

算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 除数と被除数に同じ数をかけても商は変わらないことへの理解
- 除法における計算の確かめの方法への理解
- 数の大小関係への理解



数量や図形についての知識・理解

- 小数の加法・除法計算の力
- 分数の乗法計算（乗法が整数）の力



数量や図形についての技能

《努力を要する所》

- 商の大きさについての理解
- 直方体における面と面の位置関係への理解



数量や図形についての知識・理解

計算問題については全体的に正答率が高い。図形の問題については、困難を感じている児童が多く、図形のもつ性質の理解を促す指導が継続的に必要である。

算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 示された式に数値をあてはめて、答えを求める力



数量や図形についての技能

- 示された条件を元に、他の事象について検討する力



数学的な考え方

《努力を要する所》

- 単位量あたりの大きさを求めるために、他に必要な情報を判断し特定する力
- 式の中の数値の意味を解釈し、記述する力
- 示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさをもとに、式の意味の説明を記述する力



数学的な考え方

式や数値の意味の解釈など、問題の把握・考え方の部分で不十分な様子が見られる。算数用語の理解を十分に行ったり、解き方を友達に説明したりするなどして、理解を深めていく必要がある。

これまでの取組から

- 算数科の学習に対して、既習事項を基に自力で解決する時間を設けていることにより、こつこつと丁寧に取り組む児童が多いです。
- 基礎的な計算問題については、繰り返し練習を積み重ねているので、計算技能を身に付けている児童が多いです。



今後の具体的な取組について

- 既習事項の定着のために、問題を繰り返し解いたり、朝自習の算数チャレンジによる前学年の振り返りを引き続き行っていきます。
- 算数用語を説明したり、問題の解き方を、図や式などを使ってノートに書いたり、友達に説明したりする機会を増やし、理解を深めていきます。

児童質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

- 授業の中で分からないことがあったらどうすることが多いですか。という質問に対して「その場で先生に尋ねる」「友達に尋ねる」「家の人に尋ねる」などの回答が多くそのままにせずその都度対応している児童が多いことが分かりました。
- 家で学校の宿題をしていると回答している児童が、全国・県平均と比較しても5%近く高く、多くの児童に宿題への日常的な習慣が身についていることが分かりました。

《課題と思われる所》

- 家で学校の宿題をしていると回答した児童は多かったが、学校の授業時間以外や休みの日に勉強をしていると答える児童の割合は低かったです。
- 5年生までに受けた学習についての質問に対して、「目標」「まとめ」をノートに書く活動はよくできていると回答した児童は多かったが、自分の考えがうまく伝わるよう、話の組み立てを工夫したり発表したりすることは苦手だ、と感じている児童が多いことが分かりました。



生活について

《よかった所》

- 毎日同じくらいの時刻に起きていますか。という質問に対し63.7%の児童がしていると答え、県55.2%、全国57.4%に比べると高い値を示しています。
- 学校のきまりを守っているという質問に対して「当てはまる」「どちらかといえば」を合わせると93%以上の児童が当てはまると答えており、また、全国・県と比べても高い値が示され規範意識が高いということが分かりました。

《課題と思われる所》

- 69%の児童が、自分にはよいところがあると回答しているが、(全国平均76%)、約30%の児童が「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」と回答しており自己肯定感に課題が残ります。
- 人の役に立つ人間になりたいと思うか。という質問に対して「どちらかといえば当てはまる」までを合わせると90%の児童が役に立ちたいと回答しているが、地域のボランティア活動に参加したことがあると回答した児童は50%に満たず、地域の行事やボランティア活動への参加が今後の課題です。

これまでの取組から

- 既習事項を用いて考えたり、幾つかの具体例から共通性をみつけたりする活動を通して問題の解決を行ってきました。
- 基本的な集団生活のルール of 定着化及び食事や睡眠などの生活習慣について家庭と学校の連携を図ってきました。

今後の具体的な取組について

- 児童自らが問題から課題につなげていけるような主体的な学習を通して自分の考えを表現したり、友達に説明したりすることができるように指導していきます。
- 学校行事や委員会活動などの様々な活動や体験を通して、自分の良さや可能性を実感し自信や自己肯定感を高めていけるようにしていきます。
- 地域社会への所属意識を高め、地域行事への参加を積極的に促していきます。

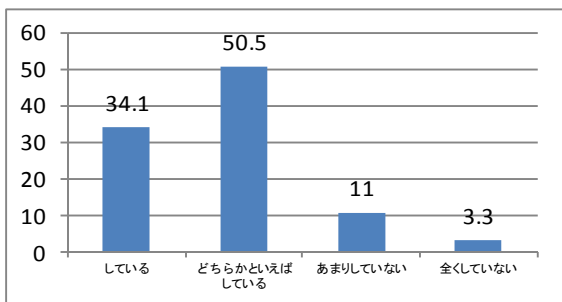
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成28年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい5つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

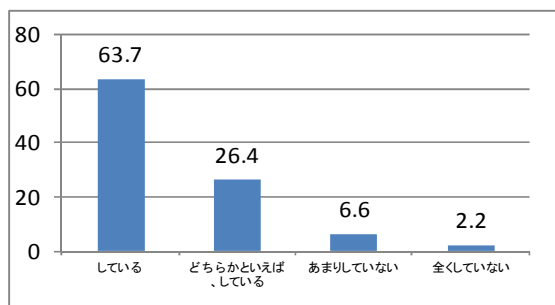
1 規則正しい生活習慣を大切にしましょう。

「早寝・早起き・朝ごはん」を続けて実践し、基本的な生活習慣を身に付けて学習に生かしていきましょう。
(朝食を食べている児童 … 本校95.6%・県95.6%・全国95.5%)

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



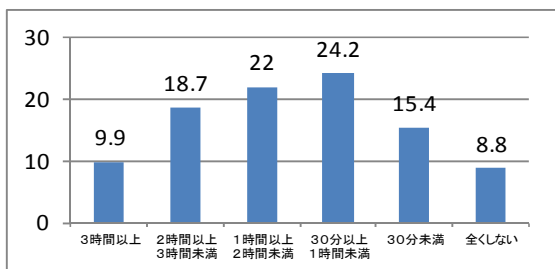
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。



2 家庭学習の習慣を身に付けていきましょう。

「10分×学年」が家庭学習の目安です。学習状況を見守り、ほめて励ましてください。

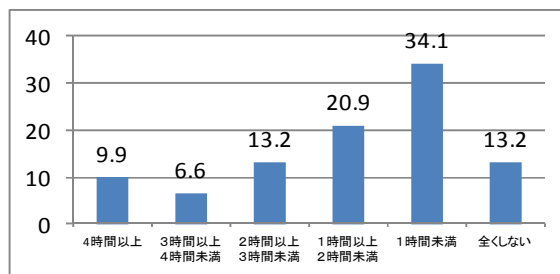
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。



3 家庭で決めたルールを守りましょう。

テレビ・ゲーム・携帯電話・スマートフォンに費やす時間を家族で決めて守っていきましょう。

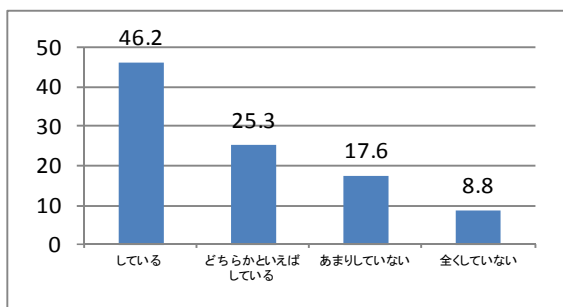
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。



4 親子で弾む会話をしていきましょう。

普段の生活や学習、さらに社会の出来事や将来などについて積極的に話し合しましょう。

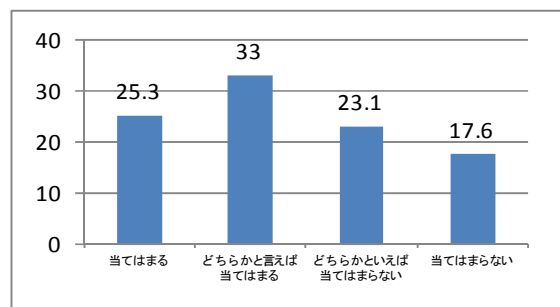
家の人と学校での出来事について話をしますか。(兄弟姉妹は除く)



5 今、住んでいる地域に愛着をもちましょう。

地域の行事に参加することで知り合いができ、安全・安心な生活を送ることができます。

今、住んでいる地域の行事に参加していますか。





平成 28 年 11 月